



農産品

# 有限会社 サンマモルワイナリー

本州最北限のワイナリー。「下北ワイン」の名で知られ、日本ワインコンクールで2016年に金賞を受賞するなど高い評価を得ている。台湾への輸出のほか、米国ハワイ州に現地法人を設立

展開国・地域 2017年 台湾

企業情報 所在地: 青森県むつ市 従業員数: 16名  
設立: 2002年6月 URL: www.sunmamoru.com

事業内容 ワイン醸造・販売 / ぶどう栽培



- 1 フランス・ブルゴーニュ地方原産のピノ・ノワールに特化してワインを醸造している
- 2 ベトナムで行われた「Japan Aomori Food Fair」に参加した様子
- 3 サンマモルワイナリーの店内



## 日本発祥ではないワインの輸出は難しい

弊社は、ワイン用のぶどうが作られるのに適しているといわれている「ワインベルト(北緯30~50度)」に当てはまる北緯41度に位置しており、ぶどうの栽培からワインの醸造までを手掛けています。商社の日本ワインブランドのリストに登録していますので、中国の日系企業が経営するスーパーマーケットのフェアなどのご案内をいただくことはありました。そのような中、青森県からジェットロを紹介いただき、本格的な海外展開に着手。売り上げ実績は全体の0.01%とまだ微々たるものです。酒を輸出する際の関税も高く、日本だと1,000円のものが海外での販売価格は3倍の3,000円になることもあります。日本料理店などで取り扱うとなると、さらにその2~3倍に。また、日本酒や和牛と違い、日本発祥ではないワインは、日本から海外に輸出する商品としては最も難しいものの一つかもしれないと感じています。

## 海外進出は、勉強&チャレンジの積み重ね

進出先として台湾を選んだ理由は、現地で青森県産のりんごの販売が好調だからです。ディストリビューターからすると、山梨のワイナリーなど少しずつ世界で評価を得てきているものもありますが「ぶどうを原料とするワインは欧州で作るもの」というイメージが強く、まだまだ認められにくい。しかし、アップルワインについては「青森県産のりんごで作った酒なんて面白いね」と興味を持っていただけ、一つの強みとしてアピールするヒントを得ました。その後、実際にパンフレットを持っていったら、自社商品の中でもぶどうで作った高級ワインの方に興味を持たれ、新しい展開につながりました。米国への輸出も考え、2017年にはハワイ州に現地法人を立ち上げましたが、そういった海外でのニーズの把握などの一つ一つの経験は、まず輸出してみようと思わなければできませんでした。常にチャレンジしながら勉強ですね。

## 日本のワインが世界で認められる時代に期待

輸出を考えているのであれば、ジェットロとの関係は密にしていた方がよいです。たくさん情報もらえますし、相談にも頻繁に乗ってくれます。お陰で私たちが安心して現地に乗り込むことができました。海外ミニ調査サービスで苗木の輸入をしてくれる企業のリサーチしてもらったり、外国人従業員の採用支援の相談など、輸出に限らず多方面でサポートしてもらえます。アジアを中心に少しずつ海外進出を進めています。でも、ウイスキーは「ジャパニーズウイスキー」というブランドを確立して、今や世界で認められていますよね。そのようなことは、私が子どものころは想像できませんでした。ですから、ひょっとしたら「ジャパニーズワイン」も世界で認められる時代が来るかもしれません。むしろ将来が予想できないから、少しずつ歩みを進めていきたいと思っています。そういう意味では、長い戦いが始まったばかりです。



代表取締役社長  
北村 良久 氏

「ジャパニーズワイン」が  
世界に羽ばたく日を夢見て、  
少しずつ歩みを進めたい



### 専門家からのポイント

ワインの上級資格を保有する社長の方針のもと、青森県産原料を中心に使用した、ストーリー性のある品質にこだわったワインを製造しています。支援開始以降、アジア向けバイヤーとの国内外商談会・展示会に積極的に参加することをお勧めしました。青森りんご輸出の縁から、サンマモルワイナリーが台湾のワイン業者の目に留まり、台湾向け中高級ワインの輸出に結びつきました。日本ワインは海外での認知度がまだ高くありませんが、台湾での日本ワイン試飲会、ワインメーカーズディナーに担当者を派遣して地道なプロモーションを継続し、輸出拡大が期待されます。